

# 保健師職能委員会活動報告

I 構成：委員長 香西真由美 副委員長 増田純子  
委員 11名

II 職能委員会開催状況：10回

III 検討事項並びに活動状況：

1. 令和元年度職能合同交流集会

日時：6月16日（日）15：00～16：30

テーマ：保健師・助産師・看護師Ⅰ・看護師Ⅱ職能委員会活動の報告及び全体討議

参加者：28名

2. 職能委員会の役割の確認

3. 職能委員会活動目標

地域包括ケアシステムが推進される中、保健師としての力量を発揮するための体制整備や効果的な保健師活動を推進するための活動基盤強化を目標として活動する。

- 1) 新任期及び中堅期保健師のスキルアップを図るとともに保健師間のネットワークを形成する。
- 2) 子育て世代包括ケア推進のため、地域と職域等の連携・支援体制を強化する。

4. 検討会設置

1) 保健師人財育成検討会

委員：5名 ○増田純子 辻よしみ 林志保 細川幸代 正汐莉

開催状況：9回

目的：保健指導ミーティングを通して、多様な場で活動する保健師が効果的な保健指導を展開するためのスキルアップを図るとともに、保健師間のネットワークを形成する。

内容：①保健指導ミーティングを効果的に実施するために中堅期保健師を対象にしたファシリテーター研修を開催した。  
②ファシリテーター研修を受講した中堅期保健師がファシリテーターとなり、新任期保健師を対象とした保健指導ミーティングを開催した。  
③参加者及び県・市町にアンケート調査を行い、その結果をもとに研修の効果を考察した。

2) 子育て世代包括支援検討会

委員：5名 ○坪倉里美 篠岡有雅 蓮井磨紀 青野美保 青木ちひろ

開催状況：10回

目的：子どもと子育て世代を対象とした「より質の高い」地域包括システムを構築するために、保健師・助産師・看護師の連携のもとに妊娠期から育児期を切れ目なく支える体制を構築する。

内容：①切れ目ない母子支援に向けて看護職の役割を発揮し連携強化を図るために、看護職が意識して見る視点及び関係機関窓口を整理した「看護がつなぐ子育て支援ガイド」を作成した。  
②周産期メンタルヘルスケアの理解を深め、対象者の捉え方及び効果的な連携及び支援を行うために、香川県看護協会職能合同研修会の検討を行った。

## 5. 活動報告

### 1) 保健師人財育成検討会

#### (1) ファシリテーター研修の開催

目的：中堅期保健師が、ファシリテーターの役割を理解し、その技術を身につけ、日頃の保健師活動や事例検討に活用することができる。

日時：10月17日（木）13：00～16：00

場所：香川県看護協会 看護研修センター

対象者：中堅期保健師及び保健師職能委員

出席者：23名（うち、中堅期9名）

内容：香川県立保健医療大学 教授 高嶋伸子先生から、テーマ『事例検討におけるファシリテーション』の講義の後、高松市保健センター保健師の藤井美緒氏から事例提供をいただき、講師の高嶋氏をファシリテーターとして事例検討を実施した。その後、グループに分かれ、中堅期保健師がファシリテーターを実践し、事例検討に関してグループ討議を行った。

#### (2) 保健指導ミーティングの開催

目的：多様な場で活動する新任期保健師が、実践事例を基に、対象の捉え方や効果的な保健指導を展開するための基本的なことを学び、情報交換の中で、自らの保健指導のスキルアップを図ると共に保健師同士のネットワークを構築する。

日時：11月14日（木）13：30～16：30

場所：香川県看護協会 看護研修センター

対象者：新任期（1～5年目）保健師及び中堅期保健師

出席者：50名（うち、新任期27名、中堅期12名）

内容：香川県立保健医療大学 教授 高嶋伸子先生から、テーマ『対象の捉え方・効果的な保健指導』の講義を行った。その後、グループに分かれ、中堅期保健師がファシリテーターとなり、新任期保健師の事例検討を実施した。

### 2) 子育て世代包括支援検討会

#### (1) 看護がつなぐ子育て支援ガイドの作成

目的：日頃の活動において切れ目ない母子支援に繋げるために、看護職が意識して見る視点を再確認し、関係機関窓口を明確にすることにより、看護職の役割を発揮し連携強化を図る。

日時：7月13日（土）、8月24日（土）、10月26日（土）、11月16日（土）、12月14日（土）、令和2年2月15日（土）、3月14日（土）

場所：香川県看護協会 看護研修センター

内容：昨年度作成した「妊娠期からの切れ目ない母子支援に向けた看護職の視点」及び県内産科医療機関、市町・保健福祉事務所55か所に照会した関係機関窓口連絡先をもとに、日頃の母子支援において活用しやすい媒体となるよう検討を進めた。まず、関係機関窓口照会の結果から、再度調査の趣旨や照会内容をわかりやすく、活用しやすい項目として再検討し、うち30か所に再照会を行った。そして、その結果を関係機関窓口一覧として整理し、「妊娠期からの切れ目ない母子支援に向けた看護職の視点」及び看護職の連携の必要性や活用について可視化したパンフレットとして「看護がつなぐ子育て支援ガイド」を作成した。

#### (2) 香川県看護協会職能合同研修会の検討

目的：周産期メンタルヘルスケアの理解を深め、対象者の捉え方や効果的な連携、支援のあり方を考えるきっかけとする。

期間：8月24日（土）、9月14日（土）、10月26日（土）、11月16日（土）、令和2年1月18日（土）、2月15日（土）

場所：香川県看護協会 看護研修センター

日 時：令和2年2月29日（土）13:00～16:00

内 容：県内の医療機関及び自治体等に勤務する看護師・助産師・保健師等を対象に、テーマ「周産期メンタルヘルスケアの実践から見える多職種連携のあり方～妊娠期からの切れ目ない母子支援のための体制構築に向けて～」と題して、医療法人輝栄会福岡輝栄会病院健診科 鈴宮 寛子先生に講師を依頼した。講義の後、日頃ちょっと気になる事例を通してのグループワークを行い、対象の捉え方やより良い支援や連携のあり方を検討するために企画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により開催は延期となった。

## 6. 出席会議

### 1) 令和元年度 全国職能委員長会

日 時：8月21日（水）10:00～16:00

場 所：東京都千代田区 アルカディア市ヶ谷 私学会館

出席者：香西真由美

内 容：

#### (1) 全体会 10:00～12:00

報告事項

##### ① 役員紹介

##### ② 令和元年度の重点政策・重点事業計画について

- ・看護基礎教育制度改革の推進
- ・地域包括ケアにおける看護提供体制の構築
- ・看護職の働き方改革の推進
- ・看護職の役割拡大の推進と人材育成

##### ③ Nursing Now について

##### ④ 都道府県看護協会支部役員等研修について 中四国は、10月16日（水）愛媛県の予定

##### ⑤ 看護チームにおける看護師・准看護師及び看護補助者の業務のあり方に関するガイドライン及び活用ガイドについて

##### ⑥ 診療報酬改定に関する進捗状況について

#### (2) 全国保健師職能委員長会 13:00～16:00

##### ① 重点施策・重点事業及び保健師職能委員会活動方針について 鎌田職能委員長

##### ② 講演：地域共生社会の実現に向けた施策の動向 厚労省加藤保健指導室長 地域共生社会の実現に向けた保健師に期待される役割 鎌田職能委員長

- ・地域共生社会の実現に向けた保健師の取り組み事例

##### ① 「地域まるごとを目指した保健師活動 甲賀市地域包括支援センター 竜王氏 自らが地域に入り込み、主体的に保健師活動を実践していることを報告

##### ② 「小学校区単位の地域づくりの実践から」熊本市健康福祉局福祉部 高本氏 熊本市の地区保健活動推進のための人材育成も含めた方策を報告

- ・地区別グループ討議

テーマ：「今後の地域包括ケア推進において保健師の専門性をどのように発揮するか～地域における看護職間連携の構築に向けて～」

中四国各県のグループで、それぞれの状況を話し合った。国の施策である医療介護連携推進会議や看護協会の看護連携、看護管理者間の連携ネットワークづくり等取り組んでいる、また、多職種で事例検討を行っている県もあるという現状をグループで共有した。各県の実情を踏まえ、他県の取り組みも参考にしながら、地域包括ケアの推進に取り組んでいければと考える。

今後は、10月の支部役員等研修で、委員長間の交流を更に深め意見交換することとなった。

2) 令和元年度 地区別保健師職能委員長会、都道府県看護協会支部役員等研修会

日時：10月16日(水) 9:00～16:00

会場：愛媛県松山市 ANA クラウンプラザホテル松山

出席者：香西真由美

内容：

《地区別保健師職能委員長会》9:00～12:00

- ・日本看護協会 福井会長あいさつ

地域包括ケアを推進していくためには、行政の保健師に旗振りをしてほしいという声が大い。また、今回の災害では宮城県の統括保健師から看護協会に派遣依頼があった。災害支援ナースとの連携必要。

看護協会には保健師の参加が少なく、入会率のアップが必要（富山県は90%、岡山県は70%と高い）。看護協会は、厚生労働省とコミットしているなどの情報を知ってもらうなどして協会の意義をPR する必要がある。

- ・報告事項

保健師関連事業報告及び保健師職能委員会報告 鎌田職能委員長

- ・討議事項

【テーマ】

(1) 地域包括ケアシステムの構築・推進及び地域包括ケアの実現を支える看護機能連携システムの構築について

(2) 地域包括ケアを担う保健師の人材確保について

(3) ネットワークおよび組織強化に関する検討

(4) 産業保健活動に関する取組について

各県委員から、意見を出し討議した。

《都道府県看護協会支部役員等研修会》13:00～16:00

- ・会長あいさつ 福井会長、愛媛県 小椋会長

- ・講演 ①「地域包括ケアの実現を支える看護機能連携システムの構築について」  
鎌田常任理事

②「地域包括ケア推進に向けた看護職間連携の取組み」

岡山市 保健福祉局保健福祉部 医療政策推進課

地域ケア総合推進センター 高木課長補佐

- ・グループワーク

テーマ：「看護職連携モデル案（素案）を用いた地域課題の解決」

7. まとめ・課題

地域包括ケアシステムが推進される中、保健師としての力量を発揮するための体制整備や、効果的な保健師活動を推進するための活動基盤強化を目標に、人財育成検討グループと子育て世代包括ケアの推進のための母子地域包括支援検討グループの二つの検討会を設け活動した。

人財育成については、保健指導ミーティングという形の研修開催の最後の年となり、また、子育て世代包括支援については、2月に研修会を予定していたものの、感染症の流行により開催できなくなったことが残念であるが、取り組みには一定の成果があった。

1) 人財育成について

保健師職能委員会として、保健指導ミーティングを10年間実施し、県内の市町・保健所の保健指導ミーティングへの参加率が過半数を超え、県内の保健師に対しての本ミーティングの認知度が上がったと考える。年度ごとの参加状況は、市町・保健所に所属する新任期、中堅期の対象人数が異なるため違いがみられた。

保健指導ミーティングを実施していない理由として、市町・保健所10か所のうち、7か所

(70%)はスーパーバイザーがいないことをあげていた。スーパーバイザーがいないと保健指導ミーティングができないという思いを持っている自治体が多い。看護協会では保健指導ミーティングをモデル的に行うことで、各自治体への波及効果をねらっており、保健所管内ごとや市町ごとに人材育成に取り組んでもらいたいと考える。

また、平成30年度からは「ファシリテーター研修」及び「保健指導ミーティング」を、香川県中堅期保健師研修とタイアップすることで、新任期保健師は9か所(82%)が対象理解の重要性を理解できた。また、7か所(64%)が、自己の支援の特徴や自己の傾向を把握できたと答えた。新任期において、保健指導の実践力アップのためには、まず、対象を理解すること、そしてさらに自己の傾向や課題を知ることが重要である。本研修に参加することで自己の強みや弱みを把握し、対象者への支援に繋げる一歩になったと考える。

また、中堅期保健師において新任期の育成は大きな役割である。ファシリテーター研修に中堅期保健師が参加することで、新任期の思考過程を理解することができた・新任期を育成する場になったと回答したものが7人(64%)いた。また中堅期保健師の中には、新任期保健師にすぐに解決を求め、自己の価値観を押し付けがちになるという意見もあり、本研修が中堅期保健師自身の振り返りとなっていることがわかった。

これまで保健指導ミーティングの中で行ってきたファシリテーターの役割と新任期の保健指導技術の向上が合わせて実施できる事例検討は、保健師のスキルアップには重要なものであると考えることから、中堅期のファシリテーター研修と新任期の保健指導技術向上のための事例検討を、今後も継続して実施していきたい。

## 2) 子育て世代包括支援について

平成28年度の宇多津町でのモデル事業の取り組み以降、平成29年度には継続看護調査、さらに平成30年度には「妊娠期からの切れ目ない母子支援に向けた看護職の視点」及び関係機関窓口を明確にするなど、妊娠期からの切れ目ない母子支援に向けて継続的に取り組んできた。

そこで今年度は、今までの成果を踏まえて、看護職が目指す姿や連携の重要性などを意識しつつ、日頃の母子支援において有効に活用しやすい媒体となるようパンフレット「看護がつなぐ子育て支援ガイド(以下『支援ガイド』という。)」を作成した。

作成過程において関係機関窓口の再照会の際には、連携の機会として改めて取り組み趣旨を説明しながら理解を得ており、『支援ガイド』の配布や活用においても同様に、取り組みの目的や看護職の連携の重要性等を積極的に伝えていく必要があると言える。

また、香川県看護協会職能合同研修会の検討では、日頃の母子支援でちょっと気になるケースについて、そのままにすることなく職場内で話し合う体制が必要であること、リスクアセスメントの基準が看護職間で共通になると良いこと等の気づきがあった。

今後は、妊娠期からの切れ目ない母子支援に向けて、対象者の捉え方や効果的な連携、支援のあり方等を考える機会として、次年度時期を待って、香川県看護協会職能合同研修会を開催していくとともに、『支援ガイド』の積極的な活用を通して、看護職間の相互の役割や機能の理解を深め、顔の見える関係づくりやより良い支援のために、看護職の連携強化を図っていきたい。

そして、看護職としての役割や機能を相互に理解し合うなかで、保健師としては、個別支援を通じて支援のために必要な支援者をコーディネートすることや個別支援から見えた課題を積み重ね地域の課題として捉え、課題解決に向けて地域づくりを推進するといった保健師ならではの役割を発揮し、活動を通じて保健師の理解を得ていく必要がある。そして、看護職において良き支援者の一員となるとともに、地域で安心して子育てできる地域づくりを目指して、地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組んでいきたい。